



長門の話題 Topics

ラグビーワールドカップ特別仕様ナンバー交付式 キャンプ地招致を応援

平成29年度から自動車の図柄入りナンバープレートが発行されるにあたり、その第一弾としてラグビーW杯2019大会を記念した「ラグビーW杯特別仕様ナンバープレート」の交付が開始され、4月3日(月)、山口県の山口県自動車振興センターで交付式が行われました。交付式には大西市長が出

席し、市長公用車のナンバープレートを受領。その後、中国運輸局山口運輸支局においてナンバープレートの取り付けを市長自ら行いました。また、市公用車5台についてもキャンプ地招致の取組の一環としてラグビーW杯特別仕様のナンバープレートに交換しています。



▲「これを契機に国内でも機運が高まれば」と大西市長

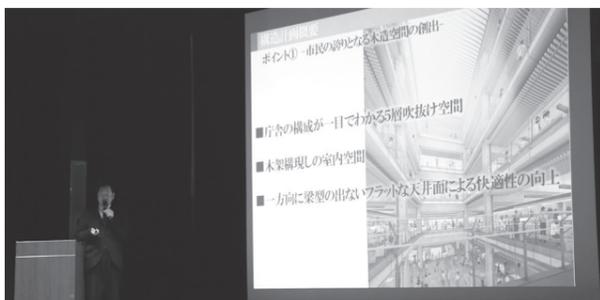


▲市長公用車を含め、6台の公用車のナンバープレートを交換

地域産木材を活用した木造建築シンポジウム 木造建築と林業の振興を

3月25日(土)、「地域産木材を活用した木造建築シンポジウム」が長門市中央公民館で行われ、市民や建築業関係者など約250人が参加しました。事例発表では、木造とRC造の5階建てハイブリッド構造となる市役所新庁舎の建築計画が紹介され、また木材の活用、加工や建築に携わる5

人のパネラーによるパネルディスカッションでは、「幅広い世代に親しんでもらえるのが木の魅力なので、今後は触れて、見て、良さを感じてもらおう取組も必要。新庁舎の建設は、地場産業の発展につながられるモデルケースとなることを期待したい」といった意見が出されました。



▲市役所新庁舎の建築計画が紹介される



▲5人のパネラーによるパネルディスカッション

ユニークな企画で地域おこし 地域おこし協力隊の河村隊員が退任あいさつ

3月31日(金)、長門市役所で、地域おこし協力隊青海島地区(大日比・大泊・青海)担当の河村将芳隊員が大西市長に退任あいさつを行いました。3年間の任期の中で、高山の登山道の整備や案内看板の設置、猫カレンダー「どこにゃの青海島」の制作、青海島の食材を使った「青海島魚介ラーメン」の開発や販売などに取り組んできた河村隊員は「さまざまな企画を実行できたのは、地域と行政のサポートがあったからこそ。試行錯誤を重ねながらも、自分なりの活動を展開できた3年間でした」と振り返りました。



▲3年間の活動を振り返り、報告する河村隊員

第2回ながと青海島千本桜まつり 千本桜を眺めながら

4月8日(土)、青海島さくらの里で「ながと青海島千本桜まつり」が開催されました。ステージでは、はじめに2代目の「青海島桜姫」として坂本珠子さん・松尾加奈江さん・中野さくらさんが発表され、その後3人はサトザクラの苗木の植樹を行いました。会場は、やきとりやくじら

汁などのグルメを楽しむむでにぎわい、長門ストリートダンス愛好会のパフォーマンスや、制限時間内に板を積み上げる高さを競う「かまぼこイタワリ選手権」など、ステージ企画も盛り上がりました。地区対抗大綱引きでは、大日比・大泊・青海地区が通地区に初めて勝利しました。

山陰道・山陰新幹線早期実現の署名活動スタート 中国地区で50万人の署名を

3月24日(金)、山陰道・山陰新幹線早期実現を目的とした50万人署名活動の開始宣言記者会見が、長門市物産観光センターで開かれました。主催した公益社団法人日本青年会議所では、地域経済再生のために各地域でのインフラ整備を促進するための活動



▲署名活動は8月31日まで行われる



▲(左から) 青海島桜姫の坂本珠子さん・松尾加奈江さん・中野さくらさん



▲地区対抗大綱引きで初勝利を飾った青海・大泊・大日比地区

二尊院の仏像2体を63年ぶりに修復

細かな彫刻の技術が魅力

3月29日(水)、油谷向津具下の二尊院の本尊「木造釈迦如来立像」「木造阿弥陀如来立像」が、約5カ月間の修復を終えて再び披露されました。

鎌倉時代に作られ、国の重要文化財に指定されている2体の仏像の修復は、昭和28年以来63年ぶり。このたびは殺虫・殺菌のためのガスくん蒸

や樹脂による漆の剥落止めなどの作業が行われました。

修復された仏像を説明する中で、二尊院の田立智暁住職は「手のしわなどに見られる細かな彫刻の技術が魅力。長い期間維持してこれたのは、作る技術と守る努力があつてこそ。ぜひ多くの人に見てもらいたい」と話しました。



▲修復を終えた2体の仏像を説明する二尊院の田立智暁住職

農事組合法人「青海」設立

青海の農地を守るために

3月26日(日)、青海集落センターで、農事組合法人「青海」の設立総会が行われました。

現在、市内では23の集落営農法人が設立され、水稻・大豆・麦・飼料作物・野菜などを組み合わせた経営を進めています。同法人は青海集落の農地や農業を守ろうと、平成27年度から協議を重ね、この

たび42戸の農家が参加する形で設立されました。

総会では、発起人会代表の深水一男さんが「地区の農地は地区で守るといふ思いで、協力体制を確立していきたい」とあいさつ。平成29年度は約15haの作付面積で、食用米や飼料用米の作付けを行うっていくとのことです。



▲青海集落の42戸の農家が参加して設立された

プログラミングを学んで、就職や起業に直結

長門プログラミング講座

3月22日(水)、「長門プログラミング講座・超人門」が長門商工会議所で開かれ、学生や起業希望者約10人が受講。講師からプログラミングの基本を学び、実際にプログラムを書いてパソコンを動かしてみるなど、WEBページをつくるスキルを取得しました。



▲IT企業エンジニアが講師を務めた

リサイクル施設竣工式

資源循環型の社会を目指して

資源循環型社会の形成を促進する長門市清掃工場リサイクル施設が渋木地区に完成し、3月30日(木)、竣工式が開催されました。関係者によるテープカットが行われたほか、リサイクル施設の設備や資源化の流れを、職員の説明を受けながら見学しました。



▲テープカットを行い、竣工を祝った

長門のPeople

地域に勇気と元気を与えられる消防士に。

磯部 緩南さん

(長門市消防本部)

／油谷川尻



4月3日(月)、長門市で初となる女性消防士として、磯部緩南さんに辞令が交付されました。油谷川尻で生まれ、中学・高校時代は剣道部で厳しい練習に汗を流してきたという磯部さんは、中学2年生の3月、東北で発生した東日本大震災を機に、人の命を救うことができる職業に就きたいと思うようになり、高専からは一度市外に出たものの、警察官や自衛隊員など数々の選択肢の中から選んだのは、故郷で働く消防士でした。

4月5日(水)からは山口県消防学校に派遣され、11月半ばまでの期間、消防士として必要な知識や体力を身に付けるとともに、消火や救急、救助などの技術を学びます。

今後の目標を聞くと「あまり女性のイメージがない職業なので、自分の姿を見て市内の中学生や高校生にあこがれを持ってもらえる消防士を目指したい。地域に勇気と元気を与えられる存在でありたいです」と強い意志を持った目で答えました。



▲先輩署員に教わりながら、体力訓練に励む磯部さん(左)

旬な人

三大銘菓の復活に挑戦

明倫小学校の児童が「明峰寺あめまつり」を企画

3月23日(木)、特別養護老人ホーム明和苑で、明倫小学校3・4年生の児童による「明峰寺あめまつり」が開催され、同苑の入所者や職員など約100人が参加しました。

かつて下関亀の甲煎餅、厚狭寝太郎餅と並び長門国の三大銘菓と呼ばれていた「明峰寺あめ」は、150年代からこの

地区で製造されていたあめです。戦前戦後に原料が不足したことで、最大28軒あった店は現在すべて廃業しています。この日は、児童が紙芝居やあめの由来の劇などを発表。手作りの「明峰寺あめ」も披露され、参加者は「昔よく食べていたことを思い出す。懐かしい」と感想を話しました。



▲「明峰寺あめ」の復活に取り組んだ明倫小学校の児童たち



▲特別養護老人ホーム明和苑の入所者前で劇を披露